

消防団健康マガジン

Presented by
トレハ

HEALTH MAGAZINE for FIREMEN

2008年(平成20年)8月1日|季刊・年4回発行|編集兼発行人/平澤良一|発行所/株式会社トレハクラブ|TEL:03-5963-5121 FAX:03-5963-5127
〒115-0055東京都北区赤羽西1-36-14 エミネンスタワー5F | E-mail: info@trehaclub.co.jp | http://www.trehaclub.co.jp/ | 印刷/機ミズカミ

August 2008

夏

夢の実現へ

「満タンで すぐに

吹っ飛ぶ 一万円」

ガソリンの高騰が、国際的な食糧危機を引き起こす。地球規模で影響を受ける時代となった。あなたの家計は大丈夫だろうか。

ところで、一万円の肖像画は誰だったか？ 古くは、7人の話を同時に聞いたという聖徳太子。日本文化の基盤を築いた世界的学者である。

その後は福沢諭吉先生へ。明治維新前後に大仕事をやり遂げた大教育者・思想家だ。諭吉は手紙を書きながら二人の話を同時に聞いて話したという。理由を聞くと「耳が右と左に一つずつあるから、それぞれで聞き分けて理解しているだけ」とさりりと答えたらしい。

福沢諭吉の実践

諭吉は天保5(1835)年、大阪で生まれ、遣欧米使節の一員として外遊。外国文化を紹介し、1868年(慶應4年)には慶応義塾を創設した。

「学問のすゝめ」では「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らずと云えり」と



1

説き、士の気風については、「出来難き事を好んで之を勤るの心」と述べている。

諭吉先生の行動力は素晴らしい。身体を鍛錬し、居合の素振りをして日に千回続けた。優秀だからこそ、自分に厳しく、人にも優しい。実際に、

諭吉は誰に対しても態度を全く変えず、人格者であったとされる。また、諭吉は饒舌でユーモアやジョークを駆使する愛すべき人間でもあった。日本の新聞(時事新報)に初めて漫画を取り入れたのも、福澤諭吉なのだ。

諭吉の研究から活力

さて、福澤諭吉の石版画を図1に示す。諭吉の令孫(故)清岡暎一慶応大学名誉教授とも親交の深かった私の友人・坂本浩一氏(岐阜県多治見市出身)を紹介したい。先日、元氣印のエイトマンとNHKで全国放映されたばかり。社会を元気にする活動を私と一緒に続けている。

大阪の浪速アイススケート場でのツーショットをご覧いただきたい(図2)。坂本氏の胸には「EIGHTMAN」、私の太ももには「Dr. sk8 (skate)」、両者の額には「8」とロゴ入りだ。末広がりの「八」は縁起がい



2



ばんどう ひろし
板東 浩氏
糖尿病専門医、ピアニスト、スピードスケーター、著書に「肥満脱出大作戦(南山堂2006)」など

い。不足する実力を、見かけでカバーできる。中年の二人は、メタボなんか関係なし。アイススケート選手として心身を鍛錬し、アンチエイジングを実践している。

地球から宇宙へ夢を

そういえば、慶応大学の後輩・星出彰彦さんがスペースシャトルに搭乗し、大仕事を成し遂げた。星出さんの motto は、「子供の頃から宇宙へ行くという夢の実現」であったと聞く。

ここで、類似点がある。諭吉の心には、「日本を国際的にも尊敬される素晴らしい国にする」という夢の実現」があった。月とすつぽんぐらいベルが異なるが、我々の場合、「いつまでもスケートの記録に挑戦し若さを保つ夢の実現」となるだろうか。

目標をずっと心に持ち続けると、「念ずれば花開く」ハズだ。あなたは、どんな夢を育んでいるだろうか？